

令和3年度全国学力・学習状況調査の結果について

令和3年10月11日
枚方市立樟葉北小学校

文部科学省が今年5月に実施した、令和3年度全国学力・学習状況調査の結果について、全国を基準とした経年推移等によって、本校の学力や学習の状況を保護者の皆様にお知らせします。結果によると、児童の生活習慣と学力には相関関係があることから、引き続き、保護者の皆様にもご協力をお願いいたします。

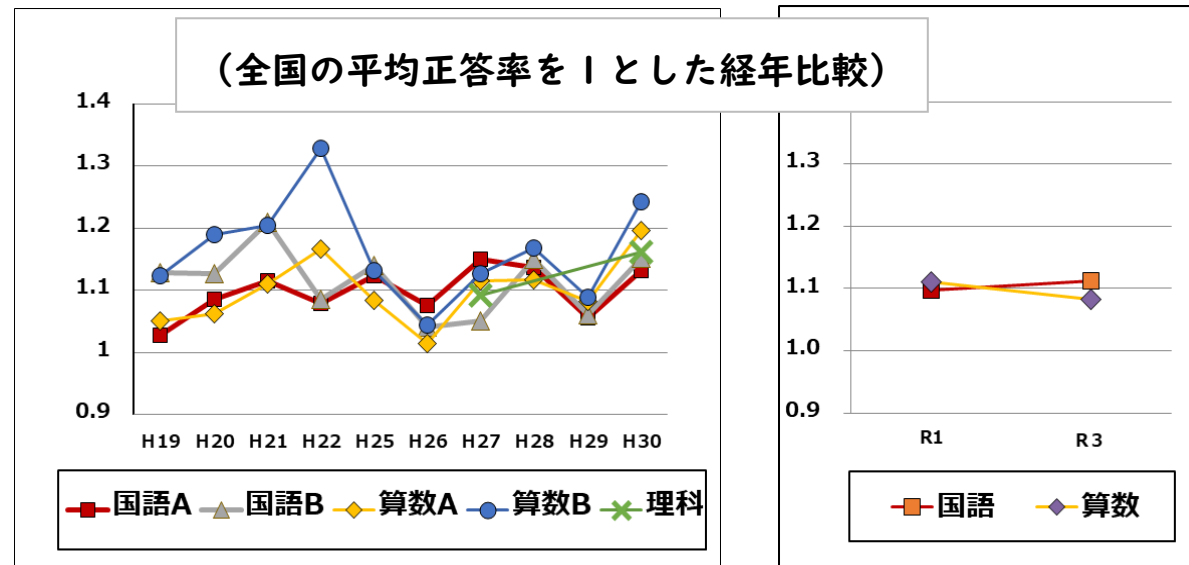
【全体概要】

学力調査の結果

学力調査結果の中から、本校と全国の経年比較(対全国比)をお知らせします。

(※令和元年度より、A・B問題が一体化されましたので、グラフを分けています。)

※調査結果について
教科や出題範囲が限られていることから、
全国学力・学習状況調査により測定できるのは、学力の特定の一部分です。



<学力調査結果の概要>

- 国語について
→全国平均を上回っています。特に、「読むこと」の領域については成果が見られました。
- 算数について
→全国平均を上回っています。特に、「変化と関係」の領域については成果が見られました。

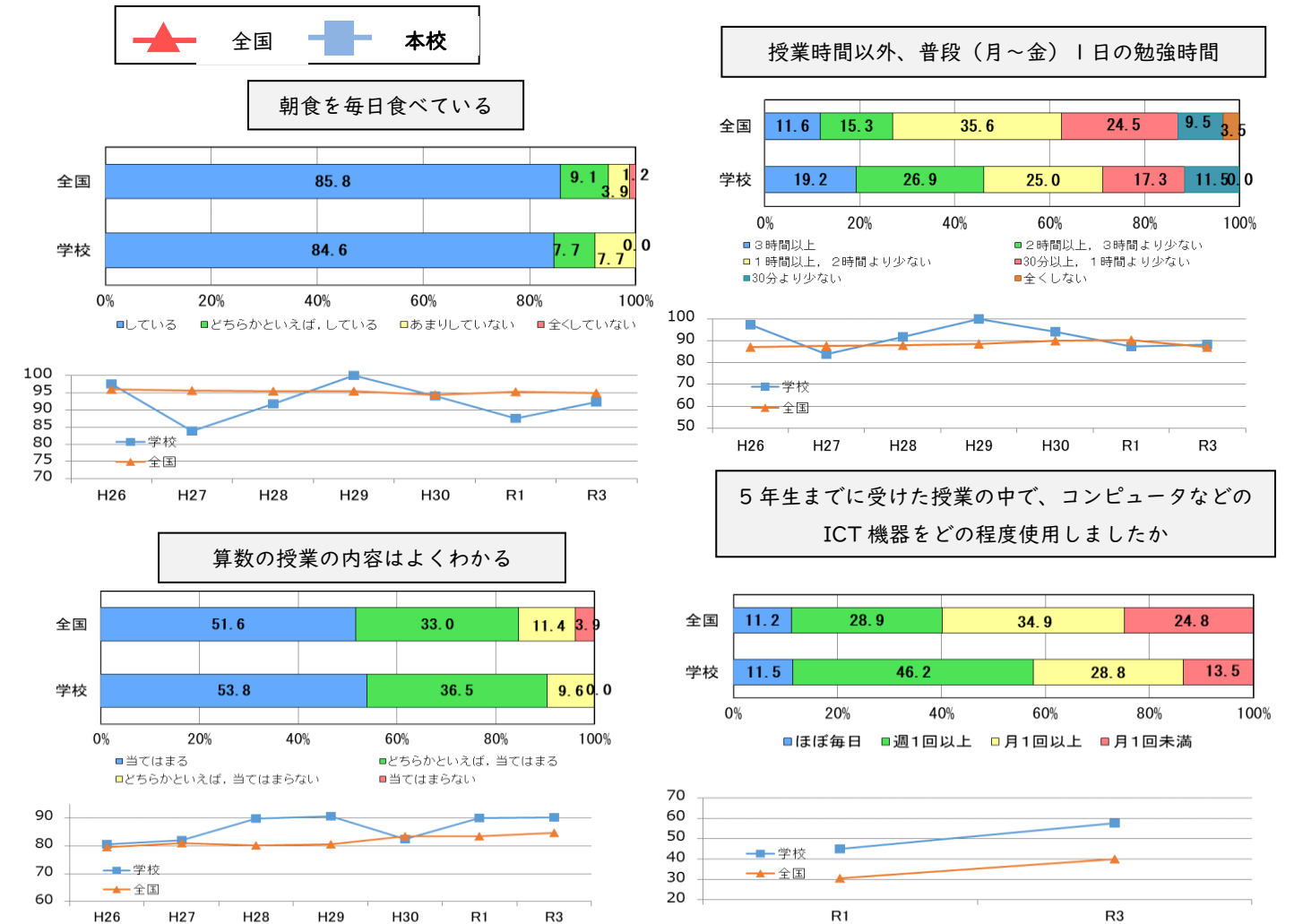
※本調査は、平成19年度から実施されています。

※平成23年度・令和2年度は中止、平成24年度は一部の学校を対象にした抽出調査のため、掲載していません。

質問紙調査の結果

※帯グラフは、左から「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」「どちらかといえば当てはまらない」「あてはまらない」を示しています。
※折れ線グラフは、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の合計数値となっています。
※無回答があるため、帯グラフの合計数値は100にならない場合があります。

質問紙調査結果の中から、主な項目について、本校と全国の経年比較をお知らせします。



<質問紙調査結果の概要>

- 生活習慣について
→保護者の方の協力により、規則正しい生活習慣が身につけている児童が多くみられます。
- 家庭学習について
→保護者の方の協力もあり、学習の時間を確保し、家庭学習に取り組む習慣が身につけている児童が多くみられます。
- 授業改善について
→ICTを活用した授業改善や「主体的・対話的で深い学び」を意識した話し合い活動の充実により、子どもたちは授業がよくわかるようになっています。
- ICTの活用について
→1人1台タブレットが導入されたことにより、ICT機器の活用頻度が高いことがわかります。

まとめ

学習調査、質問紙調査ともに普段の取組の成果が見られます。今後も継続して取り組んでいきますので、保護者の皆さまにも引き続きご協力をお願いいたします。

※次ページ以降に、「各教科に関する調査」「質問紙調査」における詳細な結果について公表しております。

【詳細について】

教科に関する調査

<国語> 成果や課題があった設問

【成果】 目的に応じ、文章と図表とを結び付けて必要な情報を見付ける

2 相川さんの学級では、身近にある便利なものについて調べています。相川さんは、面ファスナーを選びました。次は、相川さんが読んだ『資料』です。これをよく読んで、あとの問いに答えましょう。

【資料】

面ファスナーは、かさやくつなど、さまざまな製品の留め具として使われています。簡単にくっつけたり、はがしたりすることができ、とても便利な道具です。

面ファスナーは、一九四八年にスイスで起こったあるできごとがきっかけで開発されました。狩猟のため、愛犬をつれて山に登ったジョルジュ・デ・メストラは、犬の毛に野生のゴボウの実がたくさんついていて、気がつきませんでした。不思議に思い、その実を持ち帰って顕微鏡でくわしく調べてみると、ゴボウの実は先の曲がったかき状のトゲでおおわれていることがわかりました。そのトゲが犬の毛にからみついていたのです。このことをヒントにメストラは研究を重ね、数年後、特殊な素材を使い、面ファスナーを作り出しました。

一九六〇年に、日本ではじめて面ファスナーの製造・販売が始まりました。しかし、そのよさや使い道はなかなか世の中に伝わりませんでした。広く知られるようになったきっかけは、一九六四年十月の東海道新幹線の開業でした。新幹線の座席のヘッドレストカバー（頭をあてる布）の留め具として、面ファスナーが採用されたのです。新幹線の清掃作業の際には、短時間でヘッドレストカバーを交換する必要があります。そのため、一つ一つ取り外さなければならぬボタンやボタンより留め外しの簡単な面ファスナーの方が、留め具として適していたのです。誰もが注目する新幹線に使われたことで話題となり、その存在が日本中に知られるようになりました。

一九八〇年代には、私たちの身近にある製品でも使われるようになりました。財布やかばん、かさなどの家庭用品をはじめ、サポーターや血圧計の巻き付けバンドなどの医療用品にも広がりました。布のように柔軟性があり、物や体の形にぴったり合わせることもできる面ファスナーが適していたからです。中でも大流行したのは、面ファスナーを使った運動着でした。ひもぐつに比べ、手間をかけずに目的や好みに合わせてしめくあい調節することができるよさが支持されたのです。同時に、素材の開発も進められました。現在では水に強く熱にも強い素材で作られているものもあります。また、しっかりとくっつき簡単にはがすことができる面ファスナーは、宇宙でも使われています。地球のまわりを回る国際宇宙ステーションの中には無重力状態のため、物がうかびます。そこで活躍しているのが面ファスナーです。国際宇宙ステーション内のかべや天井には、あらゆる場所に面ファスナーがつけられています。ベンやスプーン、カメラやコンテなど、身の回りの全ての物が固定できるようになっています。

一人の気づきから誕生した面ファスナーは、人びとの要求に応える形で、活躍の場を広げました。身近な生活場面だけでなく、宇宙空間にまで広がり、さらなる便利さが追求されています。

国際宇宙ステーションとその内部

2—三	正答率	無解答率
本校	51.9	11.5
全国	34.4	4.1

（考察）
 説明的な文章を読んで文章全体の構成を捉え、目的に応じて中心となる語や文を見付けて要約したり、文章と図を結び付けるなどして必要な情報を見付けたりすることができていることがわかりました。
 今後も、説明や解説などの文章を読み、分かったことや考えたことをまとめる際に、内容の中心となる事柄や書き手の考えの中心となる事柄が文章全体を通してどのように構成されているのかを正確に捉えること、また、単一の情報のみに基づくのではなく、目的に応じて文章と図表などの情報を関係付けて検討するなど、複数の情報を結び付けて考えを形成することができるよう指導していきます。

三 相川さんは、『資料』の——部を読み、面ファスナーのくっつく仕組みについて考えています。メストラは、何をヒントに、どのような仕組みの面ファスナーを作り出しましたか。次の条件に合わせて書きましょう。

（条件）
 ○ ヒントになったことと、面ファスナーのくっつく仕組みが分かるように書くこと。
 ○ 『資料』の中の文章と——の「面ファスナーの仕組み」から言葉や文を取り上げて書くこと。
 ○ 五十文字以上、八十文字以内にとめて書くこと。

※ 空のげんこう用紙は書き用紙なので、使っても使わなくても構いません。解答は、解答用紙に書きましょう。
 ※ の印から書きましょう。どちらの行を変えないで、続けて書きましょう。

相川さん

【課題】 自分の主張が明確に伝わるように、文章全体の構成や展開を考える

3 丸山さんの学級では、国語の学習で、気持ちよく学校生活を送ることができるように、自分の考えを学級の友達に主張する文章を書くことになりました。次は、丸山さんが書いた『文章の下書き』です。これをよく読んで、あとの問いに答えましょう。

【文章の下書き】

一人一人が責任をもってかたづけよう

わたしは、だれもが気持ちよく生活するために、一人一人が責任をもって使った物をかたづけることが大切だと考えます。

みなさんは、休み時間後の校庭にボールが残されたままアころがっているのを見かけたことはありませんか。わたしは、ときどき見かけることがあります。イ時には、みんなが使っていた一輪車がかたづけられずに残されています。また、遊具置き場では、一輪車や竹馬が決められた所に置かれず、すみの方に、ウみ重ねられています。かたづけられたり時間がなくてかたづけられなかったりするのですが、エけんいんなのだと思います。オ。その他にも、遊び終わったらすぐに遊具をかたづけることがむずかしい場合もあるでしょう。それでも、きちんとかたづければ、わたしたちは気持ちよく遊ぶことができると思います。

さちんとかたづけることが大切ならば、そうした人などがかたづけられればよいという考えもあるかもしれません。確かに、たん当が決まっていれば、その人がかたづけてくれるでしょう。しかし、わたしは、使った人がかたづけるべきだと思います。

遊具だけではありません。そうじの道具や図書館の本も、使った人が元の場所にきちんとかたづけておけば、次に使う人は気持ちよく利用することができると思います。

学校の中がきれいになると、わたしたちは気持ちよく生活できます。そのためには、わたしは、一人一人が責任をもってかたづけることが大切だと考えます。

丸山 理子

- 丸山さんが考えた『文章の下書き』の構成についての説明として最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。
- 自分の主張を最後の段落に書くという構成にすることで、読み手が主張と事例との関係を考えながら読み進められるようにしている。
- 自分の主張を最初の段落に書くという構成にすることで、読み手が主張を予想しながら読み進められるようにしている。
- 自分の主張を最初と最後の段落に書くという構成にすることで、複数の異なる内容の主張を伝えている。

（考察）
 事象を説明したり意見を述べたりするなど、考えたことや伝えたいことを書くことに課題がみられました。
 今後は、意見を述べる文章を書く場合には、理由や事例を明確にしなが筋道を立てて自分の考えを述べる必要があります。そのためには、読み手が考えを理解しやすいように、文章全体の構成や展開を考えたり、書き表し方を工夫したり、また、目的や意図に応じて、提案する文章、推薦する文章などの種類を具体化し、その特徴を踏まえて書く指導をしていきます。特に漢字を正しく書くことや、主語と述語、修飾語と被修飾語の関係に気を付けて書くようにも指導していきます。

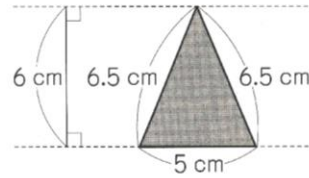
3—一	正答率	無解答率
本校	59.6	5.8
全国	64.8	2.1

【成果】

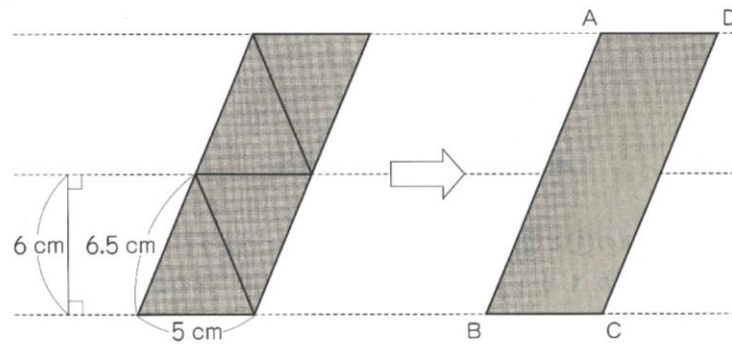
図形の構成の仕方を捉えて、面積の求め方と答えを記述できる

2

(3) 次のような二等辺三角形があります。



上の二等辺三角形を4つ使い、次のように、同じ長さの辺どうしを合わせて、平行四辺形ABCDをつくりました。



平行四辺形の面積の公式を使って、平行四辺形ABCDの面積を求めます。

辺BCを底辺としたときの面積の求め方を、式や言葉を使って書きましょう。そのとき、平行四辺形ABCDの高さをどのように求めたのかわかるようにしましょう。

また、平行四辺形ABCDの面積が何cm²になるのかも書きましょう。

【課題】

三角形の面積と求め方について理解している

2

図1のような直角三角形があります。

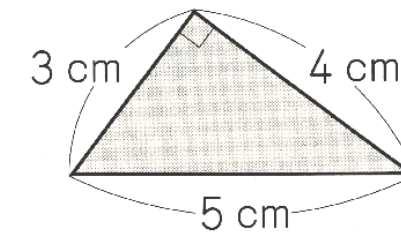


図1

(1) 図1の直角三角形の面積は何cm²ですか。
求める式と答えを書きましょう。

2-3	正答率	無解答率
本校	57.7	3.8
全国	46.0	4.6

(考察)

図形の面積について、図形を構成する要素などに着目して、求め方を筋道を立てて説明することができています。

今後も、複数の図形を組み合わせた平行四辺形について、図形を構成する要素などに着目し、図形の構成の仕方を捉えて、面積の求め方と答えを式や言葉を用いて記述する指導をしていきます。

2-1	正答率	無解答率
本校	50.0	1.9
全国	55.1	1.6

(考察)

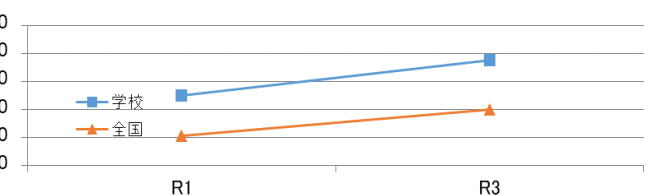
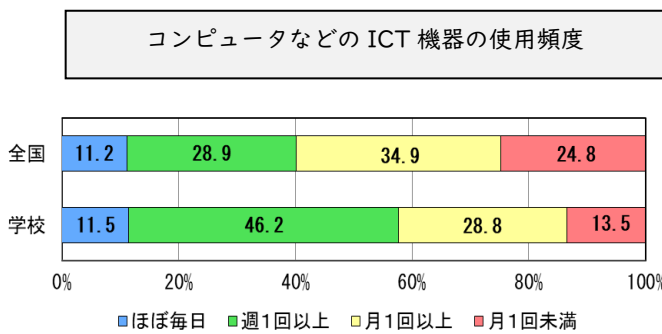
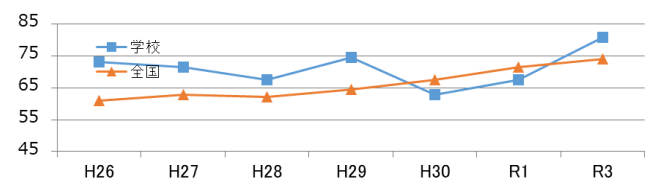
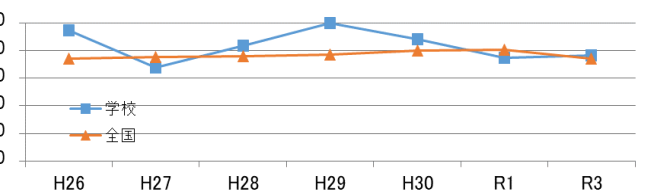
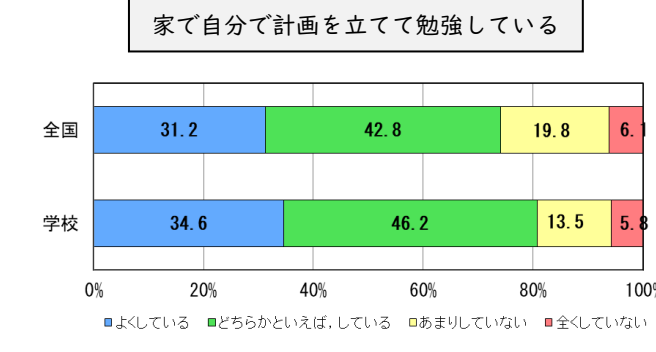
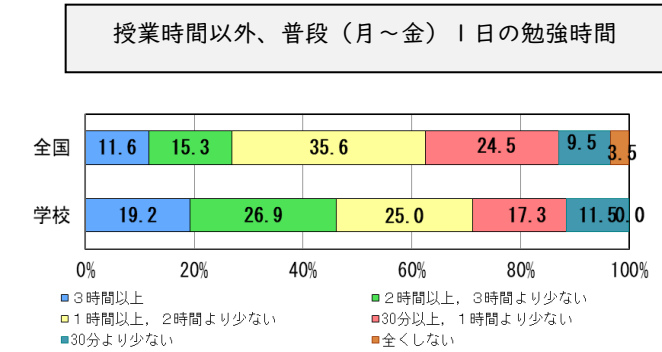
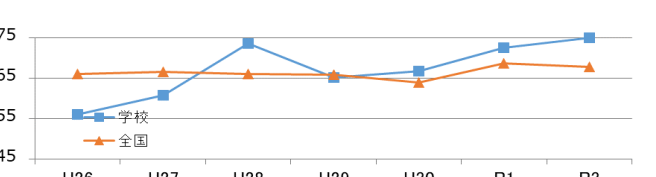
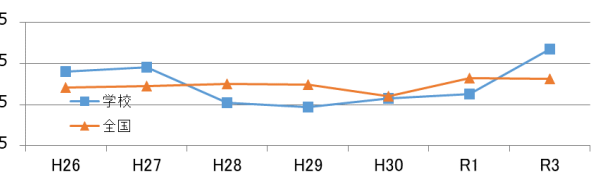
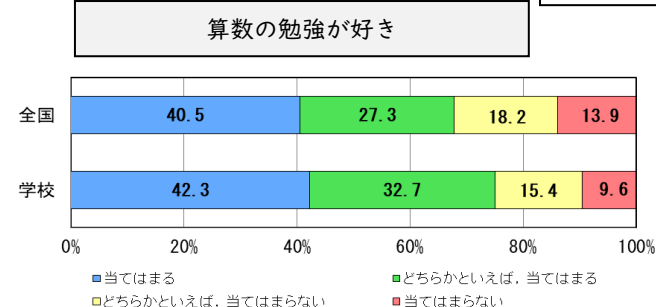
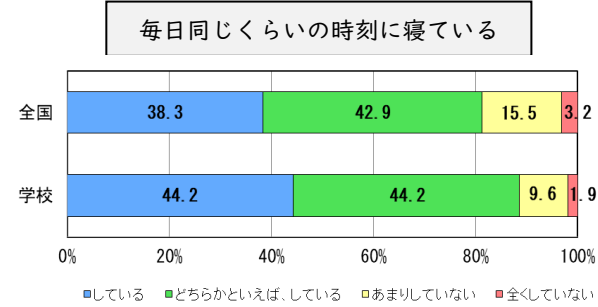
三角形の面積の求め方についての理解に課題が見られました。

今後は、三角形の底辺や高さの関係の理解を確実にしたり、求積のためにどの部分の長さを測る必要があるかを考えたりすることで、基本図形の面積を求める公式の理解を深め、活用できるように指導していきます。

質問紙に関する調査

※帯グラフは、左から「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」「どちらかといえば当てはまらない」「あてはまらない」を示しています。
 ※折れ線グラフは、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の合計数値となっています。
 ※無回答があるため、帯グラフの合計数値は100にならない場合があります。

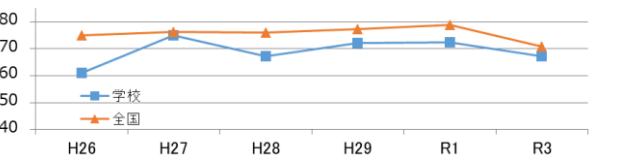
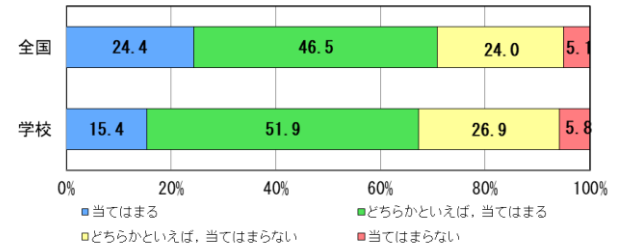
【成果のあった項目】



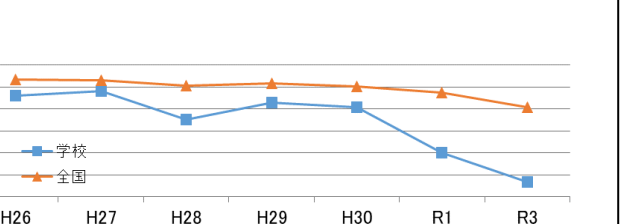
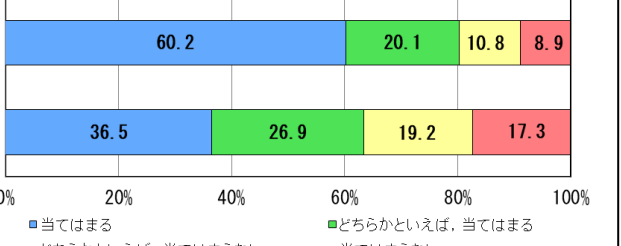
（考察）
 今回の全国学力・学習状況調査の結果から、1人1台タブレット端末が配備されたことにより、児童1人ひとりに最適化された学びになる授業改善に向かっていくことや、算数専科指導により学習内容に興味をもって学習に取り組み、学びを深めることができていくことを示しています。また、家庭学習の時間や計画性から、家庭学習の定着が見られます。これは、「くず北ホームワーク」による取組の成果と考えられます。今後も継続して、ICTを活用し、児童の学びを止めないよう家庭学習と授業内容を効果的につなげていき、「主体的・対話的で深い学び」を実践したより教育効果の高い取組を進めていきます。

【課題のあった項目】

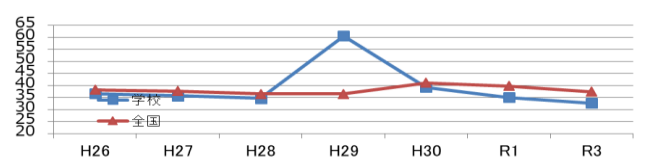
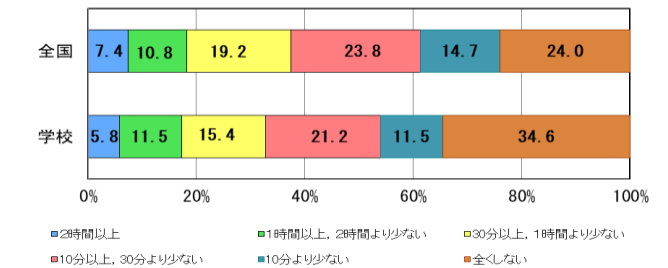
難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦している



将来の夢や目標を持っている



授業時間以外、普段（月～金）1日の読書時間



（考察）
 今回の全国学力・学習状況調査の結果より、学力の定着や学習規律の確立に成果が見られる一方で、将来への展望やチャレンジ精神、読書時間についての課題が見られました。今後は、体験的な活動やキャリア教育等を通して、自己効用感や自己有用感を高める取組を進めるとともに「こんな自分になりたい」「こんなことができるようになりたい」といった将来の見通しをもてるようにしていき、主体的に学ぶ子どもの育成を図ります。また、Q-UアンケートやSSTを活用して、安心できる居場所・教室環境をつくり、失敗を恐れず意欲的に挑戦する子どもの育成を図ります。さらに、「朝読書」や「読み聞かせ」、「平行読書」を積極的に活用し、読書の楽しさを子どもたちに体験させ、読書好きの子どもを増やし、知識や心を豊かにするだけでなく、すべての学びの基礎となる読解力を定着させていきます。これらの取組に加えて、学校や家庭での学びが、実生活にどのように活かされるのかを振り返りや考察の中に取り込み、肯定的な未来志向を伸ばす取組を進めていきます。

分析結果を踏まえて今年度中に取り組んでいくこと

- （1）授業改善について
 昨年度同様、Hirakata 授業スタンダードに基づき、ICTも活用した「主体的・対話的で深い学び」が実現できる授業改善の取組を進めていきます。それに加え、校内研究では「目的に向かって、みんなが話してよかったと思える話し合いをする姿をめざして」をテーマに、学習指導要領を見通した、話し合い活動や授業の振り返りを充実させた指導の取組を研究し、子どもたちがより深い学びをできるような授業改善を進めていきます。
- （2）安心して過ごせる学校づくり
 「ユニバーサルデザインにあふれた学校」の確立への取組を引き続き進め、子どもたち一人ひとりが安心して過ごせる学校づくりを行っていきます。
- （3）家庭学習について
 毎週行っている「くず北ホームワーク（自学自習）」の実施に効果が見られ、家で計画を立てて学習をする習慣が見られ、児童の自主的な学習が進んでいます。今後も、家庭学習と授業をつなげ、より教育効果の高い授業を実践するための授業改善を進めます。